

図書館だより 2号

R5.10月発行

例年にはない暑さを乗り越え、ようやく秋らしくなってきました。

今回の図書館だより2号では、今年度の年間目標でもあります、貸出冊数600冊の途中経過と4名の先生方のお薦めの本を紹介していきます。

🌸 年間目標 貸出冊数 600冊 🌸

9月下旬 貸出冊数 → 243冊
(4/17~9/20)

sekigaharasekigahara 堤智章先生のおすすめの本 sekigaharanotatakaiseki



【書名】 関ヶ原

【著者名】 司馬 遼太郎

【本に関するコメント】 天下分け目の戦いである関ヶ原の戦いを、主に石田三成の視点から描いた歴史小説。数時間で決着がついた合戦に至るまでの諸将の思惑や謀略、人間模様が所謂“司馬史観”によって克明に記されていて、戦争が政治・外交の延長線上にあることや、人々の行動は複雑な原理で決められていることを実感させてくれます。また、敗者の視点から関ヶ原の戦いを見ることで多様な視点で物事を見つめることの面白さや重要性に気付かせてくれる本です。

2017年 岡田准一主演

映画化 こちらもぜひ☆

hyakunementarumeru 越智雅史先生のおすすめの本 hyakunenmentarume

【書名】 百年メンタル

【著者名】 飯山 暁朗



【本に関するコメント】 みなさん、心は安定していますか？メンタルトレーニングというと、「心を強く」というイメージを持つかもしれませんが、この本を読むと少し違います。もっとも重要なものは「自分の感情をコントロールすること」であり「心の安定」を最優先に目指すものということが学べます。

mukashimukashiarutoko 松崎安紀先生のおすすめの本 ronitetugakushagayatte

【書名】 むかしむかしあるところに、哲学者がやってきた。

【著者名】 小川 仁志



【本に関するコメント】 鬼退治は正義なのか(桃太郎)、おむすび一つに小づちを渡していいのか(おむすびころりん)、誰にミカンを渡すべきか(わらしべ長者)、戦わずしてサルに復讐できないのか(さるかに合戦)など、昔話を哲学的に理解していく本です。漫画が多めなので読みやすいと思います。「公共」で学ぶ人物がたくさん出てきますよ。

ookinakiookinakiookina 道島綾美先生のおすすめの本 ookinakiookinakiookinaki

【書名】 おおきな木

【著者名】 シェル＝シルヴァスタイン



【本に関するコメント】 一人の少年に、生涯何かを与え続けるりんごの木は女性です。母のように少年を育み、楽しませ、持てるものをすべて与えることで彼を愛します。少年は与えられることに慣れ、やがて彼女らから奪い続けるようになります。無償の愛って何だろうと考えさせられる、一筋縄ではいかない絵本です。